

令和 7 年 3 月 26 日

土佐リハビリテーションカレッジ
理事長 大崎 博澄 様

学校関係者評価委員会
委員長 北村 剛

第 12 回 学校関係者評価委員会報告書

令和 6 年度開催 第 12 回 学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 小笠原 正 (企業等評価委員)
- ② 一圓 智加 (企業等評価委員)
- ③ 細田 里南 (卒業生評価委員)
- ④ 北村 剛 (卒業生評価委員 委員長)
- ⑤ 大窪 康介 (専門家等評価委員)
- ⑥ 濱川 美香 (高等学校等評価委員)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第 1 回委員会 平成 27 年 8 月 29 日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第 2 回委員会 平成 28 年 10 月 1 日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第 3 回委員会 平成 29 年 7 月 29 日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第 4 回委員会 平成 31 年 3 月 26 日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第 5 回委員会 令和 3 年 7 月 9 日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第 6 回委員会 令和 4 年 3 月 29 日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第 7 回委員会 令和 4 年 12 月 16 日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第 8 回委員会 令和 5 年 3 月 30 日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第 9 回委員会 令和 6 年 1 月 17 日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第 10 回委員会 令和 6 年 3 月 27 日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第 11 回委員会 令和 7 年 1 月 22 日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)

3 学校関係者評価委員会報告書

別添のとおり

以上

別添

令和7年3月26日
土佐リハビリテーションカレッジ
学校関係者評価委員会

第12回 学校関係者評価委員会報告書

令和7年3月26日に開催された委員会の討議に基づく検討課題と改善に向けた取り組みについて評価結果をまとめた。

1. 国家試験合格率について

【令和6年度の取り組み】

○国家試験合格率「新卒者100%」に向けての状況

- ・第60回理学療法士・作業療法士国家試験が、令和7年2月24日に実施された。新卒生については、理学療法学科34名に対し合格者28名（合格率82.4%）、作業療法士26名に対し合格者23名（合格率88.5%）という結果となった。科目履修生については、理学療法学科1名、作業療法学科3名全員合格することができた。両学科共に「新卒者合格率100%」の目標を達成できなかった。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ① 今回、不合格になった学生は次年度、再度国家試験を受験するのか、又はあきらめた学生のその後どうするのかの把握はできているのか。
- ② グループ学習のメリットはどこにあるのか？
- ③ グループ分けはどのように行っているのか？また、成果は見られるのか？
就職後はチーム医療が大切になってくるので、とても有益ではないかと思う。

【学校からの回答】

- ① 今回、残念ながら不合格となった学生との面談では、次年度、再度国家試験に挑戦する意志の確認しており、後期から本学学生に合流する予定である。
- ② 広範囲に渡る科目をグループ内で分担、共有することにより、効率化が図ることができる。また、理解度が違う学生がお互いに教え合うことにより、共に理解を深めることができる。教え合うことによる学生の負担については、教える学生の方がさらに理解が深まっているという傾向もあり、一概にデメリットとはとらえにくい。
- ③ 学生が孤立しないことを第一に配慮して、グループ分けを行っている。お互いを補完する目的で当初はグループ分けを行うが、それぞれが、やりやすい形のグループに最終的には変化している。成果としては、顕著にはわからないが、お互いを助け合うというリハの精神も育むことができるのではないかと思う。

2. 4年間卒業率について

【令和6年度の取り組み】

○4年間卒業率「90%以上」に向けての状況

- ・令和3年度入学生である第29期生の入学数は理学療法学科39名、作業療法学科34名である。これらの内、本校修業年限である4年間で卒業予定者は理学療法学科で34名（卒業率87.1%）、作業療法学科で26名（卒業率76.4%）であった。
- ・運営目標の「4年間卒業率 90%以上」は達成できなかった。
- ・理学療法学科・作業療法学科共に運営目標値・文部科学大臣認定「職業実践専門課程」要件の一つである「卒業率70%以上」共に達成できた。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ① 卒業率について、報告3「年間の退学数・留年者数」を考慮した上で、全国平均と比較すると本校はどのような評価となるのか。

【学校関係からの回答】

- ① 全国平均は調べていないため、評価は今の所行えないが、その年度によりかなりバラツキがある。

3. 退学者数および留年者数について

【令和6年度の取り組み】

○退学者数および留年者数「年間の退学者数3名以内・留年者数3名以内」に向けての状況

- ・令和6年度当初の在学学生総数は222名（理学療法学科110名、作業療法学科112名）であった。これらの内、最終集計は、3月末になるが、退学者数は6名（理学療法学科/専攻5名：2年4名、3年1名、作業療法学科/専攻1名：2年1名）。留年者数は3名（理学療法学科/専攻2名：1年2名、作業療法学科/専攻1名：3名）である。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ① 退学者はその後、どのようにするのか。
- ② 退学した学生の要因の把握はできているのか。
- ③ 1・2年生で退学者数が多い傾向が見てとれるが、それは受験した入試との関連はあるのか。

【学校関係からの回答】

- ① 多くの学生は就職する方向である。
- ② 適正が合わなかった学生もいる中で、多くは学力が追い付かないために退学する学生が一番多いと考えられる。
- ③ 詳細に分析できていないが、土佐リハビリテーションカレッジに関しては面接中心のAO型入試の退学者が多いのかもしれない。

4. 入学試験受験者実数について

【令和6年度の取り組み】

○入学試験受験者実数「100名以上」に向けての状況

- ・本年度の入学学生は高知健康科学大学2期生の入学試験となる。定員は高知健康科学大学は70名（理学療法学専攻35名、作業療法学35名）である。
- ・入学生は理学療法学専攻40名、作業療法学専攻24名であった。

【学校関係者評価委員からの意見】：

特になし。

【学校からの回答】

次年度に目標を達成するために、県外の高校訪問の強化及び大学で何が学べるのかを明確に示していくために7つのコース設定を検討している。

5. 就職率について

【令和6年度の取り組み】

○就職率「100%」に向けての状況

今年度卒業の29期生に関しては、ほぼ就職決定しているが、3名（理学療法学科）は国試験後の就職活動となり、現在就職活動中である。求人情報も十分あるため、両学科の就職率は第1期卒業生以来、29年連続して100%を達成できる予定である。

令和6年度採用の求人数は、2月末時点で理学療法学科2,748人（内、高知県内40人）、作業療法学科2,289人（内、高知県内38人）であった。昨年度に引き続き前年度に比べて全国の求人数は増加しているが、高知県内の求人数は減少している。県外県内共に就職試験が早まりつつあり、実習中の就職活動が多くなってきており、実習前の就職に対する準備や、実習中の就活支援に力を入れていく方向に変わってきている。今年度からは学生支援室、非常勤のキャリアコンサルタントに加え、ハローワーク高知の就職ナビゲーターにも面接練習に加わってもらい、きめ細かい対応を行ってきた。求人施設も訪問リハ、デイケア・デイサービス事業所、放課後児童デイ、幼稚園などより地域に密着した施設からの求人が増えてきており、就職先の方向性が多様化している。今後は、公的保険外でのヘルスケアなど更なる領域の拡大が考えられることから教育内容の見直しや就職対策、学生の意識改革などをより意識して学生支援を行う必要性を感じている。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ① 修飾先の方向性が多様化しているとのことだが、具体的にどのような就職先があるのか。

【学校からの回答】

- ① 両学科共に就職先の求人数は安定しており、以前ではなかった一般企業からの求人や作業療法学科については、矯正施設や保育施設等からの求人も増えて来ている。

6. その他の報告事項

本年度は、高知健康科学大学が4月に開学し、大学の新たな動きと連動させて、土佐リハビリテーションカレッジとしても活性化できたと考えている。教職員の増加や新図書館の完成、教育・研究備品の充実などが、在校生に対しても相乗効果で良い影響をもたらし、学生の意識向上につながっていると感じている。

・新図書館、研究棟完成

・2回の開学記念講演の開催

・地域貢献／いのちの基金

オーテピア高知図書館との共催（5年連続）イベントを2回実施した。5月の「痛みのメカニズムと対処法を学ぶ」は、いのちの基金での助成金（奥田教員：令和4年度）のもと実施された。8月は、「知っている？とても便利な機械たち」として、デジタルリハビリテーションやオーテピアにある障害者に対応する機器の紹介を子どもたちに知ってもらう機会を設けた。

いのちの基金においても昨年度に引き続き本年度も採択された。今までは個人研究としての採択であったが、今回はじめて団体助成として採択された。今後は、いのちの基金だけではなく、科研費研究など他の助成研究などの獲得にも力を入れて、より研究力の向上や地域貢献につなげていきたい。

2024年度 いのちの基金研究一覧

◆団体助成 地域連携支援センター

「発達障害に対する運動機能向上プロジェクト」

【学校関係者評価委員からの意見】

- ① コグトレを実践されている学長、充実した施設の整備が行われているが、その情報発信が一般の方々に上手く伝わっていないのではないかと。

【学校からの回答】

- ① ブランディング（どのように見せるのか）を検討しながら、広報活動をすすめていきたい。